

岩手県における糖尿病透析予防指導の実施状況と課題

平成27年地域政策研究センター(教員提案型・後期) 採択課題

課題名 : 岩手県内の糖尿病透析予防指導における体制と看護の実態調査

—岩手県内の糖尿病透析予防指導における看護の質向上のための教育システムの構築に向けて—

研究代表者 : 看護学部 講師 藤澤 由香

研究メンバー : 土屋 陽子 (名寄市立大学)、安藤 里恵 (神奈川県立保健医療大学)
三浦 幸枝、佐々木幸子 (岩手医科大学附属病院)

キーワード : 糖尿病, 透析予防指導

▼研究の目的・方法

【研究目的】岩手県の糖尿病透析予防指導(以下、透析予防指導)の実施状況と課題を明らかにすること

【調査対象】A県内の糖尿病患者の診療に携わる医療機関270施設の主に糖尿病患者の診療・指導に関わる看護師

【調査内容】透析予防指導の実施状況、看護の必要性の認識と実施状況、研修ニーズ、透析予防指導に対する意見等

【調査期間】平成28年1月~3月

▼結果

54施設(各施設1名)から回答を得た(回収率20%)。

【透析予防指導の実施状況】

透析予防指導を行っている施設は13施設(24.0%)

【糖尿病透析予防指導管理料(以下、管理料)の届け出状況】

・管理料算定を受けている施設は11施設(20%)

・届出できないもしくはしない理由は、看護師の確保ができない、該当する患者数が少ない、患者の金銭的負担が増す、効果が上がらないの順で多かった。

【透析予防指導における看護の必要性の認識と実施状況】

・透析予防における看護の実施状況は、全期を通して、必要性の認識よりも割合が低く、期が上がるごとに、実施状況、必要性の認識ともに、割合が低くなっていた。

・「チーム内の連携・調整」については、必要性の認識より実施の割合が大きく低下していた。

【透析予防指導に対する意見】

「スタッフ不足に関わる困難」「指導料算定に関わる困難」「指導上の困難」「指導の充実への意欲」「自己研鑽への意欲」「他職種連携や体制確保への意欲」が見られた。

【透析予防指導に関する研修会のニーズ】

・開催された場合、参加を「希望する」30名(56%)、「希望しない」9名(17%)、わからない11名(20%)であった。
・希望する内容は、「スタッフ教育や上司・他職種との調整に関する内容」「具体的な事例の検討や振り返り」「記録の方法に関する内容」、希望しない・わからないと回答した理由として、「時間の確保が難しい」「透析予防指導の実績がなく勉強する必要性を感じない」などが挙げられた。

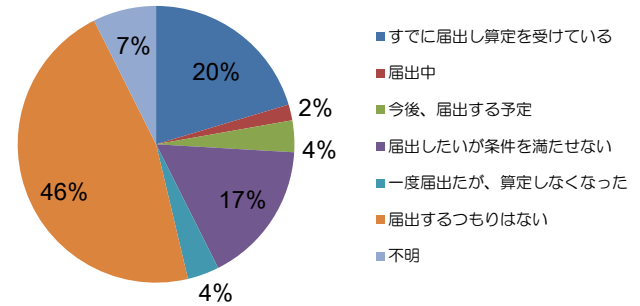
▼考察

・岩手県の透析予防指導は、透析予防指導の必要性の認識、指導充実への意欲を持ちながらも、スタッフ不足や透析予防指導の内容自体への理解不足や技術不足、不確かな腎症コントロールゆえに成果や効果を実感しにくいこと等の困難を抱えながら、実践している状況が明らかとなった。
・課題として、人材の確保や看護師の知識・経験の強化の必要性、看護師の自ら事例を振り返り、より良いケアを検討していきける力を強化すること、実施した成果を他の看護スタッフ、Drや他職種そして患者にアピールしていくことで周囲の協力も得られ、より透析予防指導の浸透と質の向上につなげていける可能性について示唆された。

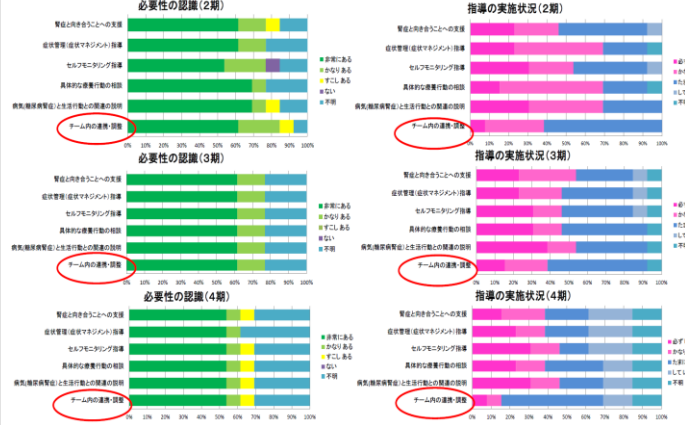
▼おわりに

本研究の成果をもとに、県内の糖尿病透析予防指導における看護の質向上のための教育システムの具体を明らかにすべく、検討を進めている。また、本研究の成果を足がかりとし、全国の糖尿病透析予防指導の質向上のための支援システム構築に向けたアクションリサーチ(平成28年度科学研究費助成事業 若手研究(B))を進めている。

管理料の届出状況 (N=54)



透析予防指導の必要性の認識と実施状況(N=13)



透析予防指導に対する思い

項目	内容
スタッフ不足に関わる困難	スタッフが少ない中で透析予防指導をのびのびと行いたいと考えている。 高度での業務の負荷が非常に高く、業務をこなすだけで精一杯で、業務に余裕がなく、透析予防指導の時間確保が難しい。
指導料算定に関わる困難	指導料算定が難しい。指導料算定が難しい。指導料算定が難しい。指導料算定が難しい。
指導上の困難	指導の質を向上させるための研修や教育が必要。指導の質を向上させるための研修や教育が必要。
指導の充実への意欲	指導の充実への意欲がある。指導の充実への意欲がある。
自己研鑽への意欲	自己研鑽への意欲がある。自己研鑽への意欲がある。
他職種連携や体制確保への意欲	他職種連携や体制確保への意欲がある。他職種連携や体制確保への意欲がある。